

有識者からいただいたコメント

◆吉田研作氏（上智大学特別招聘教授、言語教育研究センター長、中央教育審議会教育課程部会外国語ワーキンググループ主査）

今回の英語の問題は、今までのものと違い、スピーキングやライティングの間接的に問う問題（発音、アクセント、語句整序など）は含まれておらず、リーディングは純粋に読解力を、またリスニングは純粋に聴解力をはかるものになっている点が非常に良い。どの問題も実際のコミュニケーションや言語使用場面を反映したものとなっており、英語自体は分かりやすいが、レベル的には、従来のテストより高くなっており、上位層でも識別できるものとなっている。また、読解、聴解という点から、設問には、要約、複数の情報から答えを導き出さなければならないもの、また、複数解答を求めるものなどが含まれており、従来以上にしっかり読んだり聞いたりできなければ解答できなくなっている。さらに、リスニング問題の中には、メモを取りながら解答を考える問題が含まれている。また、リスニングの録音に、現在のグローバル世界を反映して、アメリカ英語だけでなく、イギリス英語も使われている点も従来のものと異なっている。もう一点リスニングで今回特徴的なのは、今後のリスニング問題のあり方の検証のために、質問の一回読みと二回読みが試験的に含まれている点である。

全体として、今回の英語は非常に良く出来ていると思う。読解、聴解というコミュニケーション力を測るのに妥当性の高いものになっている。

◆松本茂氏（立教大学グローバル教育センター長、中央教育審議会教育課程部会外国語ワーキンググループ主査代理）

【全般】

民間の英語四技能テストの導入とともに、これまでの大学入試センターが独自に作成する「英語」の問題を併存させることになり、その内容が注目されていた。現行の学習指導要領に則った上で、3月末に発表される予定の新学習指導要領の改訂の方向性も視野に入れて作成するという難題をクリアした上で、「読む」「聞く」に関して「使える英語力」を測れる試験になったと言える。高校の英語教育の改善に大きく寄与すると思われる。

受験生は共通テストと民間の英語四技能試験の両方を受けることを踏まえ、共通テストでは「聞く力」「読む力」の二技能に焦点を当てることになったことが大きな特徴の一つである。これにより、これまで出題されていた「話す力」「書く力」を間接的に測っているとされた問題（発音、アクセント、語句整序など）を排除できたことを評価したい。これらの問題は、いわゆる「受験英語」の指導を助長していたという根強い批判が以前からあった。

【聞く（リスニング）】

「聞く」に関しては、複数の情報を聞いて判断する問題など「判断力」を問う問題が新たに加わった。また、英語での講義を聴きながら英語でメモが取れるかどうかといった、大学に置いて英語で行われる専門科目の授業が増えつつある中、高大接続を視野に入れた問題が配置されていることも評価したい。

また、英語の多様性に鑑みて、吹き込み者に、これまでの米国人に加え、英国人と日本人を起用していることも評価できる。高校現場で指導補助しているALTが世界各国から来ていることを考えれば、この変更は遅すぎたくらいだ。今後、オセアニア地域などの出身者を加えることも検討してよいだろう。

「当てはまる選択肢をすべて選択する」という受験テクニックが通用しない問題も配置している。

【読む（リーディング）】

「読む」に関しては、必要な情報を理解・整理する力や話の流れをつかむ力を測る問いが出題されており、「使える力」を測っていることを評価したい。また、今まで以上に総語数の多い英文も出題され、英文を読んで英語で要約できるかどうかという問題も配置されており、英文を日本語に訳さずに理解するための指導を推進する上で追い風になると思われる。

さらに、情報に基づき選択肢を仕分けする問題や、当てはまる選択肢をすべて選択する問題などが含まれており、これまでの受験テクニックが通用しにくい形式も目新しい。

◆高山芳樹氏（東京学芸大学教育学部教授、NHK テレビ「エイエイ GO!」監修・講師）

従来の英語のセンター試験に取り組んでいると「自分は今、英語のテスト問題を解いている」という感覚を持つことが多かったのですが、今回の英語のプレテストではその感覚が薄れ、あたかも自分がその場で英語を使ったコミュニケーション活動をしているような感覚を持ちながら取り組むことができました。その理由としては、各設問の冒頭でコミュニケーションの場面、目的、状況が明記され、受験者がコミュニケーションの当事者として英文素材のリーディングやリスニングに取り組むような仕掛けがされていたからだと考えます。また、センター試験で出題されていた、特定の文法事項や語彙・表現、音声に関する知識の有無を直接探るような問題が姿を消したのもその理由です。

「筆記（リーディング）」では、与えられた複数の情報を事実と意見に仕分ける問題や、グラフ資料とレポートの両方を読みながら、情報を整理・統合したり、記事内容をメモの形で整理する問題などがあり、英文の表面的な意味理解だけで終わるのではなく、読み手側の思考力や判断力が求められています。

「リスニング」でも、話し手の意図を汲み取れているか、発話内容の概要や要点を捉えた上で、情報を的確に整理できるかを問う出題があり、音声情報を実際のコミュニケーションで活用できるかどうかを試されています。なお、音声を聞く前に、状況と問いを読む時間が設けられていますが、時間の長さは妥当なのか、問いで示されている指示が十分理解されるのかが気になりました。本番に向けて検証していただきたいと思います。